

# 母性看護学・助産学分野年報 No.8

Activity Report on Department of Midwifery and Women's Health

平成 21 年度

2009.4-2010.3

東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻  
母性看護学・助産学分野

Department of Midwifery and Women's Health,  
Division of Health Sciences & Nursing,  
Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

# 目 次

1. はじめに	1
2. 研究業績	2
(1) 原著・報告	
(2) 著書・報告書	
(3) 学会発表	
(4) シンポジウム・セミナー等	
3. 研究活動	5
(1) 抄読会	
(2) 母性看護学・助産学研究報告会	
(3) 研究会・勉強会	
■ シフロの会	
(4) 研究プロジェクト	
(5) 研究交流促進	
(6) その他	
4. 教育活動	14
(1) 学部講義	
(2) 学部実習	
(3) 大学院特論	
(4) 卒業論文	
5. 学内外での活動	21
(1) 学内の活動・役割	
(2) 学外での活動・役割	
(3) その他（学内外における講義・講演など）	
6. 教室日誌	23
7. 教室員名簿	24

## 1. はじめに

母性看護学・助産学分野は、平成14年6月に設置され、今年で8年目となりました。博士号や修士号の取得者も増えてきました。最初の大学院生として入学した松崎政代さんが今年度から当教室の助教に就任するなど、修了生が教員として、活躍はじめています。また研究成果も論文として国内外へ発信できるようになってきました。

平成21年2月に米国のノースカロライナ大学チャペルヒル校看護学部と東京大学大学院医学系研究科との間に学術交流協定が締結されましたが、初の留学生として、博士課程1年の白石三恵さんが渡米しました。講義に積極的に参加する他、共同研究者として研究にも加わるなど、貴重な経験をしてきました。その中で指導教授より、最も優れた学生のうちの一人という高い評価もいただくことができました。

学部での助産学教育課程は開設より5年目となり、実習先では卒業生が後輩の指導にあたってくれるようにもなりました。また、卒業生も研究報告するようになってきました。今年度の取得者は1名でしたが、保健師・助産師・看護師の3つの国家資格を取得するのみならず、卒論も見事に作成・発表することができ、今後の助産学教育課程の学生によりロールモデルを示してくれたと思います。またこうした成果から、助産学教育課程では、助産学の科目履修に加え、今後、卒論を作成・発表することを前提にカリキュラムを進めていくように致します。

助産学は、体内動態の変動の激しい妊娠から分娩、産褥期と、その後の生涯に渡る健康課題を追跡することから、独自の学問領域を開拓できます。当教室の研究プロジェクトを通して、成果を情報発信し、社会に還元できるように努力していきます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 2. 研究業績 (2009. 4. ~ 2010.3)

### (1) 原著・報告

Megumi Haruna, SeonAe Yeo, Etsuko Watanabe, Masayo Matsuzaki, Erika Ota, Kae Nakayama, Sachiyo Murashima.

Perceptions of women and health-care providers in Tokyo of appropriate weight gain during pregnancy.

Nursing and Health Sciences, 12(1), 21-26, 2010.

Kae Nakayama, Megumi Haruna, Masayo Matsuzaki, Kyouichi Sekine, Sachiyo Murashima.

Changes in 13, 14-dihydro-15-keto-prostaglandin F<sub>2α</sub> (PGFM) levels in saliva during pregnancy, labor and the postpartum period.

The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research, 36(1), 27-33, 2010.

Uayan Maria Luisa, Sayuri Kobayashi, Masayo Matsuzaki, Erika Ota, Megumi Haruna, Sachiyo Murashima.

Mothering and acculturation: Experiences during pregnancy and childrearing of Filipina mothers married to Japanese.

BioScience Trends. 3, 77-86, 2009.

Elisabeth Severinsson, Megumi Haruna, Febe Friberg

Midwives group supervision and the influence of the continuity of care model with—a pilot study.

Journal of Nursing Management (accepted)

村山陵子, 青木和夫

妊娠経過に伴う睡眠姿勢の変化と呼吸・循環器系への影響

ストレス科学研究, 24, 20-29, 2009.

白石三恵, 春名めぐみ, 松崎政代, 大田えりか, 村嶋幸代, 佐々木敏, 永井泰

妊娠期の朝食欠食に関連する栄養素摂取量とその要因

日本母性衛生学会誌, 50(1), 148-154, 2009.

吉田真奈美, 春名めぐみ, 大田えりか, 渡辺悦子, Uayan Maria Luisa T, 村嶋幸代

在日フィリピン人母親が子育てで直面した困難と対処

母性衛生, 50(2), 422-430, 2009.

### (2) 著書・報告書

春名めぐみ, 白石三恵, 松崎政代

特集：行動変容をうながす！食事指導のアプローチ，ライフスタイルに合った食事指

導 妊産婦向けの食事指導プログラムの開発をめざして  
助産雑誌, 64(2), 130-134, 2010.

島田啓子, 有森直子, 木村千里, 島田真理恵, 谷津裕子, 眞鍋えみ子, 春名めぐみ  
日本助産学誌 投稿規定の変革 ―何がどう変わったか―  
日本助産学会誌, 23(1), 111-121, 2009.

島田啓子, 木村千里, 安達久美子, 有森直子, 島田真理恵, 春名めぐみ, 谷津裕子  
日本助産学誌の投稿から掲載まで  
日本助産学会誌, 23(2), 301-302, 2009.

上田康夫, 丸尾原義, 本田由佳  
Phase angle と Resistance を組み合わせた BIA ダイアグラム解析による新しい栄養ア  
セスメント  
日本産科婦人科学会雑誌, 62(2), 639, 2010.

### (3) 学会発表

Hitomi Koizumi, Kumi Hotta.  
The intervention skill of midwives in Japan for improving maternal and newborn  
health—Qualitative research on Nurse-midwives who are in practice in their  
birthing homes locally—.  
9th ICM Regional Asia Pacific Midwives' Conference in Hiderabad, India,  
November19-22, 2009.

岡本美香子, 村山陵子, 樋口善英, 中田真木, 上妻志郎, 村嶋幸代  
産後 1～6 か月における腹横筋・骨盤底筋群機能.  
第 24 回日本助産学会学術集会, 茨城県 つくば国際会議場  
2010 年 3 月 19 日～20 日

本田由佳, 上田康夫  
初経発来前後の身体組成と体型意識との関連性についての検討  
第 61 回日本産科婦人科学会学術集会, 京都府 国立京都国際会館  
2009 年 4 月 3 日～5 日

上田康夫, 丸尾原義, 鈴木嘉穂, 荏原弘光, 鴨井青龍, 河村堯, 竹下俊行, 杉山隆,  
佐川典正, 豊田長康, 池田泰裕, 田代真希, 海野信也, 本田由佳  
妊婦の総エネルギー需要量に関する検討—蓄積エネルギーを構成する体脂肪エネルギ  
ーを中心に—  
第 33 回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 石川県 金沢市アートホール  
2009 年 7 月 31 日～8 月 1 日

渡邊浩子, 吉原一, 小安美恵子, 本田由佳, 内野直樹  
生体インピーダンス法による BMI 別の妊娠中の体組成の推移と出生体重との関連  
第 50 回日本母性衛生学会学術集会, 神奈川県 パシフィコ横浜  
2009 年 9 月 27 日～9 月 28 日

本戸史子, 吉原一, 内野直樹, 野田芳人, 福岡秀興, 本田由佳, 新井陽子  
妊娠各時期における基礎代謝量と体組成との関連及び胎児への影響の検討  
第 50 回日本母性衛生学会学術集会, 神奈川県 パシフィコ横浜  
2009 年 9 月 27 日～9 月 28 日

#### **(4) シンポジウム・セミナー等**

春名めぐみ (座長), 吉岡マコ (シンポジスト)  
シンポジウム 今日から生かせる産前・産後のセルフケア  
ー骨盤と筋肉の仕組みから学ぶしなやかな体づくり  
第 25 回東京母性衛生学会学術セミナー 東京都 東京都看護協会  
2010 年 2 月 7 日

### 3. 研究活動

#### (1) 抄読会（毎週火曜日・地域看護学との共同抄読会）

平成 21 年度、抄読会において紹介された文献および紹介者は以下の通りである。

前期 2009. 4/7～ 7/7, 後期 9/15～ 2010. 3/9

月 日	担 当	内 容
4 月 7 日	村嶋幸代	平成 21 年度の開始に当たって
4 月 14 日	白石三恵	AS Olafsdottir, GV Skuladottir, et al. Combined effects of maternal smoking status and dietary intake related to weight gain and birth size parameters. <i>Fetal medicine</i> , 113:1296-1302, 2006. (クリティーク：岡本美香子)
	廣田真由美	M2 修論進捗状況報告 在宅へ移行した小児とその家族が受けた退院支援とその後の生活
	村山亜矢子	子供の養育役割をもつ就労者の spillover と健康に及ぼす影響とその関連要因
4 月 21 日	島村珠枝	Sylla Thiam, Andrea M LeFevre, et al. Effectiveness of s Strategy to Improve Adherence to Tuberculosis Treatment in a Resource-Poor Setting. <i>JAMA</i> , 297(4): 380-386, 2007. (クリティーク：成瀬昂)
	洪井優	M2 修論進捗状況報告 閉じこもり高齢者予備軍の類型化
	中山香映	D3 博論進捗状況報告 分娩後出血量の予測指標の検討 - 血液中 13, 14-dihydro-15-keto-prostaglandin F <sub>2α</sub> (PGFM) 値および NOx 値の利用可能性に焦点を当てて-
4 月 28 日	堀田久美	Ruth Feldman, Aron Weller, et al. Evidence For a Neuroendocrinological Foundation of Human Affiliation. <i>Psychological Science</i> , 18(11): 65-970, 2007. (クリティーク：松崎政代)
	川口祥	M2 修論進捗状況報告 就学前期において行動問題のある子どもの母親の育児困難感とその関連要因 - ソーシャルサポート(情動的サポート)に焦点を当てて-
	石塚裕美子	予期せぬ再入院をした高齢者の入院プロセスの分類とその関連要因(仮)
5 月 12 日	戸村ひかり	Ann-Helen Almborg, Kerstin Ulander, et al. Patients' perceptions of their participation in discharge planning after acute stroke. <i>Journal of Clinical Nursing</i> , 18:199-209, 2008. (クリティーク：野尻直美)
	新槇文枝	M2 修論進捗状況報告 産業保健師の専門技術の明確化：過重労働による健康障害を予防するための役割
	桑原雄樹	訪問看護の規模の経済性に関する研究(仮)
5 月 19 日	山田千佳	S Cummins, M Stafford, et al. Neighborhood environment and its association with self rated health: evidence from Scotland and England. <i>J Epidemiol Community Health</i> , 59:207-213, 2005. (クリティーク：村山陵子)
	渡邊麻衣子	D2 博論進捗状況報告 地域在住高齢者に対する予防的家庭訪問プログラムの開発とその効果
	野尻直美	要介護認定高齢者における介護費と医療費の給付実態と療養病床再編成時の課題

5月26日	川本晃子	Mary Courtney, Helen Edwards. Fever Emergency Readmissions and Better Quality of Life for Older Adults at Risk of Hospital Readmission: A Randomized Controlled Trial to Determine the Effectiveness of a 24-Week Exercise and Telephone Follow-Up Program. <i>The American Geriatric Society</i> , 57:395-402, 2009. (クリティーク: 有本梓)
	渡邊麻衣子	K Avlund, M Vass, et al. Educational intervention toward preventive home visitors reduced functional decline in community-living older women. <i>Journal of clinical Epidemiology</i> , 60:954-962, 2007. (クリティーク: 堀田久美)
6月2日	山名由希子	Beverley A Lowton, Sally B Rose, Exercise on prescription for women aged 40-74 recruited through primary care: two year randomized controlled trial. <i>BMJ</i> , 13:1-7, 2009. (クリティーク: 春名めぐみ)
	島村珠枝	C.Raina MacIntyre, Simon Cauchemez, et al. Face Mask Use and Control of Respiratory Virus Transmission in Households. <i>Emerging Infections Diseases</i> . 15(2):233-241, 2009. (クリティーク: 山田千佳)
6月9日	草刈由美子	Pao-Chen Lin, Miaofen Yen, et al. Quality of life in elders living alone in Taiwan. <i>Journal of Clinical Nursing</i> . 12:1610-1017, 2008. (クリティーク: 田口敦子)
	白石三恵	Ahmad Esmailzadeh ,Leila Azadbakht, et al. Major Dietary Patterns in Relation to General Obesity and Central Adiposity among Iranian Women. <i>The Journal of Nutrition</i> , 138:358-363, 2008. (クリティーク: 川本晃子)
6月16日	山居優子	Coleman EA, Parry C, The Care Transitions Intervention Results of a Randomized Controlled Trial. <i>Achives of Internal Medicine</i> , 166:1822-1828, 2006 (クリティーク: 村嶋幸代)
	田口敦子	地域 topic : 「訪問看護需給計画策定に関する調査研究業務」報告書
6月23日	岡本美香子	Daniells Symons Downs, Jennifer M. Determinants of Pregnancy and Postpartum Depression: Prospective Influences of Depressive Symptoms, Body Image Satisfaction, and Exercise Behavior. <i>The Society of Behavioral Medicine</i> , 36:54-63, 2008. (クリティーク: 山名由希子)
	村山陵子	母性 topic : 研究経過報告「妊娠期の骨盤安定機能の着目した姿勢に変化についての研究-姿勢と関連するマイナートラブルの予防的援助を目指して-」
6月30日	成瀬昂	Cololin Donath, Angelika Winkler, et al. Short-term residential care for dementia patients: predictors for utilization and expected quality from a family caregivers' point of view. <i>International Psychogeriatrics</i> , 1-8, 2009. (クリティーク: 草刈由美子)
	戸村ひかり	D2 博論進捗状況報告 ① 退院支援看護師の退院支援実践力の自己評価尺度の開発及び信頼性と妥当性の検証 ② 退院支援看護師の退院支援実践力と関連要因の検討
7月7日	永田智子	Kathryn H Bowles, John H Holmes, et al. Factors Identified by Experts to Support Decision Making for Post Acute Referral. <i>Nursing Research</i> , 58(2):115-122, 2009. (クリティーク: 山居優子)
	石塚裕美子 廣田真由美 戸村ひかり	地域看護学会予行 看看連携に関する国内文献の検討 (第1報) 自宅退院した医療ニーズの高いケースへの退院支援 看護師による退院支援過程

9月15日	戸村ひかり Nisook Lee	Bellary S, O' Hare JP, et al. Enhanced diabetes care to patients of south Asian ethnic origin (the United Kingdom Asian Diabetes Study): a cluster randomized controlled trial. <i>Lancet</i> , 371(9626):1769-76, 2008. (クリティーク:成瀬昂) 地域topic:Home Visiting services in Korea related to Study Plan in Japan
9月29日	山名由希子 新植文枝	Kamphuis CB, van Len the FJ, et al. Socioeconomic differences in lack of recreational walking among older adults:the role of neighborhood and individual factors. <i>Int J Behav Nutr Phys Act</i> , 6(1):2009. (クリティーク:島村珠枝) M2 修論進捗状況報告 労働状況の改善に向けて職場と調整する際の産業看護職の専門技術の明確化:過重労働対策に焦点を当てて
10月6日	山居優子 廣田真由美 成瀬昂	Steehan E, Moons P, Milisen K, De Bal N, De Geest S, et al. Implementation of discharge management for geriatric patients at risk of readmission or institutionalization. <i>Int J for Quality in Health Care</i> , 18(5):2006. (クリティーク:春名めぐみ) M2 修論進捗状況報告 (仮)在宅に移行した重症児とその家族についてのケーススタディー退院支援とその後の生活に焦点を当ててー D1 博論研究計画 ホームヘルパー同行による効率的訪問看護サービス提供体制の開発
10月13日	川本晃子 島村珠枝	Kuriyama S, Nakaya N, et al. Factors associated with psychological distress in a community-dwelling Japanese population: <i>the Ohsaki Cohort 2006 Study</i> . (クリティーク:田口敦子) D1 博論研究計画 結核患者の服薬中断リスクアセスメントツール全国統一版の開発
10月20日	草刈由美子 川本晃子 山名由希子 山田千佳	Lau DT, Kirby JB. The relationship between living arrangement and preventive care use among community-dwelling elderly persons. <i>Am J Public Health</i> . 99(7):1315-21, 2009 (クリティーク:松崎政代) 公衆衛生学会予行: 東京大学大学院修士課程「保健師コース」での地域診断・活動展開実習で学んだこと 近隣の向老期男性による住民グループのメンバーが有する地域及びグループコミュニティ感覚
10月27日	岡本美香子 川口祥 村山亜矢子	D1 博論研究計画: 産後の腹圧性尿失禁予防・改善プログラムの開発と効果検証 M2 修論進捗状況報告: 幼児を持つ母親の育児困難間とその関連要因 ー子どもの行動特性に焦点を当ててー 仕事と家庭の両立支援に積極的な職場環境と就労者の健康の関連 (仮)
11月10日	有本梓 石塚裕美子 桑原雄樹	Melhuish E, Belsky J, et al. Effects of fully-established Sure Start Local Programs on 3-year-old children and their families living in England: a quasi-experimental observational study. <i>Lancet</i> . 8;372(9650):1641-7, 2008 (クリティーク:成瀬昂) M2 修論進捗状況報告: 高齢再入院患者の実態ー再入院のプロセスとその原因ー (仮) 訪問看護サービス提供の効率性測定に対するDEA、SFAの適用

11月17日	川本晃子 山名由希子 堀田久美 渋井優	M1 修論研究計画： ① 高齢者の地域活動への参加を促進・阻害する要因、参加を促す保健師の支援の探索 ② 高齢者の地域活動への参加、参加の仕方と生きがいの関連 在日外国人結核患者の治療中断に影響する因子の検討 D1 博論研究計画： 分娩時の肛門括約筋損傷の実態と要因に関する研究 M2 修論進捗状況報告： 都市部高齢者における閉じこもり一次予防アプローチの検討
11月24日	山田千佳 草刈由美子 武内奈緒子	M1 修論研究計画： セルフヘルプ・グループにおける地域志向性の関連要因に関するグループ間での比較検討－メンバーがもつ集団アイデンティティに着目して－（仮） 男性介護者に対するソーシャルサポート －夫介護者と息子介護者を比較して－ D3 博論進捗状況報告： 介護療養型医療施設入所者の状態像、入所までの経緯、入所継続理由
12月1日	岡本美香子 山居優子 戸村ひかり	Herbert WJ, Heiss DG, et al. Influence of feedback schedule in motor performance and learning of lumbar multifidus muscle task using rehabilitative ultrasound imaging: a randomized clinical trial, <i>Physical Therapy</i> , 88(2):261-269, 2008. (クリティク:野尻直美) M1 修論研究計画： 退院支援に関する「病棟看護師の個人要因」と「病棟の環境要因」が、病棟の職場風土に与える影響および病棟看護師が実施する退院支援との関連 D2 博論進捗状況報告： ① 退院支援看護師による「退院支援実践能力」の自己評価尺度の開発及び信頼性と妥当性の検証 ② 退院支援看護師の「退院支援実践能力」と関連要因の検討
12月8日	堀田久美 尾形玲美	Todd H. Rockwood, James M. Church, et al. Fecal Incontinence Quality of Life: Scale Quality of Life Instruments with Fecal Incontinence. <i>Dis Colon Rectum</i> , 43(1):9-16, 2000. (クリティク:永田智子) 卒業論文経過報告： 児童虐待防止を目的とした行政保健師と保健所との連携状況
12月15日	山田千佳 横山由美	Bridget Dibb, Lucy Yardley. How does Social Comparison within a self-help group influence adjustment to chronic illness? A longitudinal study. <i>Social Science &amp; Medicine</i> , 63(6):1602-1613, 2006. (クリティク:有本梓) D3 博論進捗状況報告： ダウン症候群の子どもを出産した母親の心理的経験（仮）
1月5日	新槇文枝	
1月12日	石塚裕美子 川口祥 桑原雄樹 渋井優 廣田真由美 村山亜矢子	修士論文サポート

1月19日	新槇文枝	
1月26日	石塚裕美子 川口祥 桑原雄樹 洪井優 廣田真由美 村山亜矢子	修士論文発表予行
2月2日	成瀬昂  日下桃子 尾形玲美	Judith T B, Nathalie C.G.M.D. Work Characteristics and determinants of satisfaction in four age groups: university employees' point of view. <i>Internal occupational Health</i> . 82:1249-1259, 2009. (クリティーク: 岡本美香子) 卒業論文発表予行: 妊婦の転倒要因に関する文献検討 児童虐待防止を目的に保育所と連携した行政保健師の支援内容
2月16日	桑原雄樹  山居優子	Nicholas G Castle, Kristin E Sonon, et al. The Search and selection of Assisted Living Facilities by Elders and Family. <i>Medical care</i> 45(8):729-738, 2007. (クリティーク: 武内奈緒子) M1 修論研究計画: 神経内科病棟の看護師が実施した退院支援についてのフィードバックが、病棟看護師のアセスメントの視点に与える効果
2月23日	洪井優  白石三恵	Caitlin K Holey, Benjamin T Mast. The Impact of Anticipatory Grief on Caregiver Burden in Dementia Caregivers, <i>The Gerontologist</i> . 49(3):388-396, 2009. (クリティーク: 村山亜矢子) ノースカロライナ大学研修報告: 介入研究を行う前に
3月2日	廣田真由美  山田千佳 草刈由美子	Richard C. Antonelli, Christopher J. Stille, et al. Care Coordination for Children and Youth With Special Care Needs: A Descriptive, Multisite Study of Activities, Personnel Costs, and Outcomes. <i>Pediatrics</i> , 122(1):209-216, 2008. (クリティーク: 石塚裕美子) M1 修論研究計画: 障害児の母親におけるスティグマと精神的健康の関連の検討 要介護高齢者の主介護者における介護負担感に関連する要因
3月9日	川口祥  川本晃子 山名由希子	Lee Anne Roman, Judith K Lindsay, et al. Addressing Mental Health and Stress in Medicaid-Insured Pregnant Women Using a Nurse-Community Health Worker Home Visiting Team. <i>Public Health Nursing</i> , 24(3):239-248, 2007. (クリティーク: 新槇文枝) M1 修論研究計画: 地域在住高齢者における社会参加に関連する要因 地域在住高齢者の社会的ネットワークと主観的幸福感の関連

## (2) 母性看護学・助産学研究報告会

平成21年度、報告会において実施されたテーマおよび報告者は以下の通りである。

前期 2009. 4/21～ 6/30, 後期 9/15～ 2010. 3/9

月 日	担 当	内 容
4月21日	岡本美香子	伝達講習：PubMed 実践セミナー — エビデンスレベルを意識した文献検索 —
4月28日	中山香映	Jornal reading: Wang TJ, Gona P, Larson MG, Tofler GH, Levy D, et al. Multiple biomarkers for the prediction of first major cardiovascular events and death. <i>N Engl J Med.</i> 355(25):2631-9, 2006.
5月12日	村山陵子	研究報告：妊娠の進行に伴う睡眠の変化に関する研究 —睡眠姿勢を含めた実態調査—
5月19日	白石三恵	博論研究計画：トランスレーショナルリサーチシステムを活用した 栄養指導プログラムの開発
5月26日	松崎政代	Jornal reading: Leeners B, Richter-Appelt H, Imthurn B, Rath W. Influence of childhood sexual abuse on pregnancy, delivery, and the early postpartum period in adult women. <i>J Psychosom Res.</i> 61(2):139-51, 2006.
6月2日	本田由佳	日本産科婦人科学会 参加報告： 初経発雷前後の身体組成と体型意識との関連性についての検討 新しい母体栄養評価法を用いた出生体重と母体体重増加量およびエネルギー 需要量の関連に関する研究
6月23日	春名めぐみ	研究報告：産後1年までの母体体組成の変化
6月30日	堀田久美	博士論文研究計画：骨盤内循環に関する研究
9月15日	春名めぐみ	研究進捗報告：トランスレーショナルリサーチシステムを活用した栄養指導方法の 開発とその効果—エビデンスに基づく妊娠期の食事方法の臨床応用—
9月29日	松崎政代	伝達講習：代理出産を問い直す会 第1回公開研究会（東京大学）
10月6日	堀田久美	博士論文研究計画：下肢血流状態の妊娠への影響に関する研究
10月13日	堀田久美	博士論文研究計画：妊娠糖尿病女性の食後血糖コントロール
10月20日	村山陵子	研究計画：妊娠期の骨盤安定化機能に着目した姿勢の変化についての研究—姿勢と 関連するマイナートラブルの予防的援助を目指して—
10月26日	岡本美香子	Jornal reading: Castellsague X. Natural history and epidemiology of HPV infection and cervical cancer. <i>Gynecologic Oncology</i> , 110:S4-S7, 2009.
10月27日	本田由佳	学会発表報告：NST (Nutrition Support Team) 活動における BIA 体組成計を用いた 栄養評価についての一考察
2月2日	白石三恵	博士論文研究計画：妊娠中の自記式食事歴法質問票の妥当性・再現性の検証と 栄養素の自己申告値に与える影響要因に関する研究
2月16日	教員 (春名めぐみ)	トピック：大学院・大学専攻科・大学別科での助産師養成
	堀田久美	博士論文研究計画：分娩時の肛門括約筋損傷の実態と要因に関する研究
2月23日	春名めぐみ	研究進捗報告：トランスレーショナルリサーチシステムを活用した栄養指導方法の 開発とその効果—エビデンスに基づく妊娠期の食事方法の臨床応用—

3月2日	松崎政代	研究進捗報告：就労妊婦の就労継続に影響する要因の解明
	岡本美香子	日本助産学会予行：産後1～6か月における腹横筋・骨盤底筋群機能
3月9日	村山陵子	研究進捗報告：看護理工学を基盤としたトランスレーショナルリサーチシステムの構築とその評価—産後女性のBody-Reconstructionプログラムの開発とその評価—

### (3) 研究会・勉強会

#### ■ シフラの会

	月 日	講 師	演 題
第8回	9月29日(火)	大久保功子先生 (東京医科歯科大学 教授)	理論の勉強会

### (4) 研究プロジェクト

#### 春名めぐみ, 村山陵子

Body Reconstruction プログラム開発に関する TR 実践とその評価

平成19～22年度 科学研究費補助金 基盤研究(A)「看護理工学を基盤としたトランスレーショナルリサーチシステムの構築とその評価 (研究代表者：真田弘美教授)」分担研究

#### 村山陵子, 春名めぐみ

妊娠・出産を契機とする腹圧性尿失禁の効果的な予防プログラムの開発とその効果

平成20～22年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)

#### 春名めぐみ, 松崎政代, 大田えりか, 白石三恵, 村山陵子, 村嶋幸代, 佐々木敏

トランスレーショナルリサーチシステムを活用した栄養指導方法の開発とその効果

—エビデンスに基づく妊娠期の食事方法の臨床応用—

平成20～21年度 第6回花王健康科学研究助成

#### 春名めぐみ, 松崎政代, 中山香映, 白石三恵, 堀田久美

医療現場での自動検査 (POCT : Point of Care Testing) 装置の信頼性・妥当性評価に関する研究

平成21～22年度 三菱化学メディエンス株式会社との共同研究

#### 春名めぐみ

妊娠中の栄養摂取量の自己申告値に与える影響要因に関する研究

平成21～22年度 やずや食と健康研究所 2009年度研究助成

#### 春名めぐみ

妊娠中の葉酸・ビタミン摂取状況と酸化LDLの関連

—妊娠高血圧症候群の予防に向けて—

平成 21～22 年度 2010 年度 ダノン学術研究助成

松崎政代

就労女性の妊娠・育児期の就労継続に必要な具体的支援内容の提案

平成 21～22 年度 科学研究費補助金 若手研究(スタートアップ)

中山香映

分娩進行の新しい評価指標の開発—唾液中プロスタグランディンの簡易的な測定機器(チェッカー)の開発のための基礎研究—

平成 20 年度 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金

岡本美香子

インナーユニットとの関係に着目した腹圧性尿失禁の予防・改善プログラムの開発—中高年女性の腹圧性尿失禁症状とインナーユニット(骨盤底筋、腹横筋、多裂筋)の筋力・筋厚の関係調査—

財団法人三菱財団社会福祉事業・研究助成 第 39 回(平成 20 年度) 研究助成

岡本美香子, 村山陵子, 樋口善英

分娩後の腹圧性尿失禁予防を目的とした骨盤底筋群機能回復支援の開発と効果検証—ランダム化比較試験—

財団法人明治安田厚生事業団健康医科学研究助成 第 26 回(平成 21 年度) 研究助成

岡本美香子

産後 1～6 か月の骨盤底症状の自覚と性行動再開時期との関連—日本語版骨盤底機能評価尺度の開発と評価を含めた検討—

財団法人日本性教育協会学術研究奨励金 第 20 回(平成 21 年度) 研究助成

白石三恵, 春名めぐみ, 松崎政代

妥当性のある栄養アセスメントツールを活用した栄養指導プログラムの開発とプログラムのプロセス評価

平成 21 年度 日本看護協会出版会研究助成金 研究助成

## (5) 研究交流促進

平成21年5月5日～8日 ベトナム ニャチャン  
ワークショップ研究報告

Maternal and child health training workshop Handicap International,  
Belgium, Nha Trang, Vietnam.

発表タイトル: Reliability and validity of the Vietnamese version of the Pregnancy  
Physical Activity Questionnaire (PPAQ).

(Erika Ota, Megumi Haruna, Hideki Yanai, Motoi Suzuki, Dang Duc Anh,  
Masayo Matsuzaki, Le Huu Tho, Koya Ariyoshi, SeonAe Yeo,  
Sachiyo Murashima.)

## (6) その他

短期留学

白石三恵

留学期間: 2009.8.26～2009.12.20

受講講義: From Theory to Intervention in Chronic Conditions

担当教授: Merle Mishel, Ph.D, FAAN

指導教授: SeonAe Yeo, Ph.D, FAAN

共同研究: 1. Pilot Study "Stretching exercise and autonomic regulation among  
obese and sedentary pregnant women"

## 4. 教育活動

### (1) 学部講義

#### 1) 母性看護学 3年後期 I-1・2

担当：春名めぐみ，村山陵子，松崎政代

目的：人間のライフサイクルの中で生殖に関与する期間のうち，妊娠，分娩，産褥各期を中心に，その基礎と健康問題のアセスメント及び看護の計画，実施，評価法を学習する。

参考書：系統看護学講座 母性看護学〔1〕〔2〕医学書院

#### 講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
10月19日(月)	9:00~12:10	母性看護概論・妊娠期の看護	春名
10月22日(木)	16:20~17:50	分娩期の経過(正常・異常)	亀井
10月26日(月)	9:00~12:10	分娩期の看護	松本
10月29日(木)	16:20~17:50	産褥期の経過と看護	松崎
11月2日(月)	9:00~12:10	新生児(正常・ハイリスク)の看護	近藤
11月5日(木)	16:20~17:50	産褥期の異常	亀井
11月9日(金)	9:00~12:10	施設内分娩における助産師の役割	石川
11月12日(木)	16:20~17:50	妊産褥婦，新生児の事例展開①	村山
11月19日(木)	16:20~17:50	妊産褥婦，新生児の事例展開②	村山
11月20日(金)	13:00~16:10	自然出産と助産師の仕事	三宅

非常勤講師：亀井良政 東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科 講師  
松本弘子 東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科病棟 副看護師長  
近藤好枝 慶応義塾大学 看護医療学部 教授  
石川紀子 総合母子保健センター愛育病院 看護師長  
三宅はつえ もものみ助産院，出張開業助産師

#### 2) 生きることを支える科学：看護学の最先端(総合科学：人間・環境一般)

対象：駒場学生

日程	時間	講義題目	担当
4月23日(木)	16:20~17:50	生命の誕生を支える看護	春名
4月30日(木)	16:20~17:50	美しく健康的に生きる力を支援する看護	村山

### 3) 健康科学・看護学概論

対象：2年生（進学予定学生）

期日：4学期 平成21年10月28日

講義題目：「出産をめぐる状況とニーズ」

担当：村山陵子

### 4) 助産学Ⅰ 4年前期Ⅰ-2・Ⅲ（助産学教育課程履修者必修）

目的：助産学の基本概念および助産師の役割と責務を理解し、国内外におけるこれからの助産師の役割を考える視点を養う。助産学の展開に必要な性・生殖系の病態生理や妊婦・胎児の成長発達診断方法、不妊症、生殖補助医療などの医学的知識を学ぶ。

参考書：助産学講座 1. 助産学概論, 2. 生殖の形態・機能. 医学書院

#### 講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
5月11日(月)	9:00~10:30	概論Ⅰ 助産学の基本的概念・理念と助産の歴史	春名
5月11日(月)	10:40~12:10	概論Ⅱ 助産師の役割と機能および責務	春名
※9月14日(月)	9:00~12:10	母体と胎児の生理、妊娠初期の異常	M2 講義
※9月17日(木)	9:00~12:10	異常妊娠	M2 講義

※医学科M2 講義受講

### 5) 助産学Ⅱ 4学年前Ⅲ（助産学教育課程履修者必修）

目的：周産期における正常・異常を判断する技術・能力、助産師にとって重要な相談・教育・援助活動ができる能力を養う。また助産学の対象とする女性の健康への理解を深める。

参考書：助産学講座 2. 生殖の形態・機能 5. 助産診断・技術学Ⅰ 6. 助産診断・技術学Ⅱ 医学書院

#### 講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
9月7日(月)	9:00~12:10	遺伝相談・不妊治療における助産ケア	安藤
9月7日(月)	13:40~16:10	事例検討	安藤
10月7日(水)	13:00~17:50	新しい女性医療の現場から	対馬

非常勤講師：安藤広子 岩手県立大学看護学部看護学科 教授

対馬ルリ子 ウィミンズ・ウェルネス銀座クリニック 院長

6) 助産学Ⅳ 4 学年前Ⅲ・後 (助産学教育課程履修者必修)

目的：産婦、褥婦および児の健康状態を診断し、安全かつ満足度の高い分娩、産褥経過をたどるよう援助できる能力・技術を養う。

参考書：助産学講座 4. 乳幼児の成長発達・新生児の管理, 6. 助産診断・技術学Ⅱ. 医学書院

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
9月4日(金)	9:00~16:10	授乳期の援助	井村
11月16日(月)	9:00~14:30	分娩期アセスメント：経過の予測診断技術	村山
11月16日(月)	14:40~17:50	分娩期のケア：根拠にもとづくケア	村山
11月17日(火)	9:00~10:30	分娩介助技術①	村山
11月17日(火)	10:40~12:10	分娩介助技術演習①	村山・松崎
11月17日(火)	13:00~16:10	分娩介助技術②	松本
11月18日(水)	9:00~16:10	分娩介助技術演習：正常な経過をたどる場合 (フリースタイル分娩)	中根
11月19日(木)	9:00~14:30	分娩介助技術演習②	村山・松崎
11月20日(金)	9:00~12:10	事例による助産計画の展開	松崎

非常勤講師：

井村真澄 国際医療福祉大学小田原保健医療学部 リプロダクティブヘルス看護学 教授  
 中根直子 日本赤十字医療センター 分娩室長  
 松本弘子 東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科病棟 副看護師長

7) 助産管理学 4 学年前期Ⅰ-2・夏休み (助産学教育課程履修者必修)

目的：助産業務を安全に・円滑に遂行するために必要な助産管理の原理と技法、法的側面について知識を養う。

参考書：助産学講座 8. 助産管理 医学書院  
 助産所開業マニュアル 日本助産師会刊

講義スケジュール

日程	時間	講義題目	担当
5月15日(金)	13:00~17:50	助産管理とは：管理の基本概念、法的側面 リスクマネジメント 助産師のエンパワーメント	春名

8月27日(木)	13:00~14:30	病院における助産管理①	池之上
8月28日(金)	14:40~16:10	病院における助産管理②	池之上
8月29日(土)	13:00~14:30	助産所における助産管理①	杉山
8月31日(月)	14:40~16:10	助産所における助産管理②	杉山

非常勤講師：池之上由紀子 総合母子保健センター愛育病院 看護部長  
杉山富士子 ファン助産院 院長

## (2) 学部実習

### 1) 母性看護学実習 (2単位)

対象：4年生

担当：春名めぐみ, 村山陵子, 松崎政代

目的：妊婦, 産婦, 褥婦および新生児とその家族を理解し, 対象に応じた看護を實踐できる知識・技術を養う。

期間：平成21年6月8日(月)~6月19日(金)

実習施設：東京大学医学部附属病院

入院棟A3階南 女性診療科・産科病棟・NICU

女性診療科・産科外来

実習時間：8:00~16:00 (外来8:30~)

### 2) 助産学実習Ⅰ (1単位)

対象：4年生 助産学教育課程履修者

担当：春名めぐみ, 村山陵子, 松崎政代

目的：助産院および病院における助産業務管理の実際から, 助産管理・運営, 助産領域におけるケア提供の場の違いによる特徴や役割を理解し, 対象者の立場から求められるサービス提供のあり方, 消費者とのエンパワーメント, 他職種との連携について考える視点を養う。

期間：平成21年8月27・28・31日, 10月10日

実習施設：総合母子保健センター 愛育病院

ファン助産院

### 3) 助産学実習Ⅱ (7単位)

対象：4年生 助産学教育課程履修者

担当：春名めぐみ, 村山陵子, 松崎政代

目的：妊娠・分娩・産褥・新生児・育児期における母子および家族に対して, 健康状態をアセスメントし, 適切なケアを實踐するための, 基本的な知識, 技術, 態度を養う。

期間：産褥継続実習 平成21年6月~平成22年1月

分娩介助実習、産褥・新生児実習

平成21年11月24日(火)～12月27日(金) 5週

平成22年1月4日(月)～1月22日(金) 3週 計8週間

妊婦外来実習

平成21年11月26日(木)・27日(金)・30日(月)

実習施設：東京大学医学部附属病院 産科(新入院棟3階南フロア)、女性診療科・産科外来

ファン助産院

#### 4) 保健学実験・検査法実習(ラボメソ)

対象：3年生

担当：松崎政代 / 村嶋幸代

目的：人の「体」を統合体として捉えることができるよう人体の形態・機能を評価する方法を理解し習得する。

日程：平成21年9月16日(水)、17日(木)、11月11日(水)、13日(金)、18日(水)、25日(水)

### (3) 大学院特論

#### 1) 母性看護学・助産学特論 I

担当：春名めぐみ / 村嶋幸代

目的：研究を推進するための基礎的能力を育成する。

母性看護学・助産学分野における現在の動向を把握し、時代のニーズに対応できる基礎的能力を育成する。

方法：根拠に基づく医療・看護(Evidence-based Medicine・Nursing)と文献レビューの基本的な考え方および方法論について、演習を通して学ぶ。特論終了時には、レビュー論文のアウトラインもしくは初稿が書けることを目標にする。

Women's Health Nursing Methodology では、最新の知見・動向をもとにディスカッションを行う。

主な参考書：

- ・Arlene Fink. Conducting research literature reviews. - From the Internet to Paper- 2<sup>nd</sup> Edition 2005.
- ・Sue Proctor, Mary Renfrew: Linking Research and Practice in Midwifery. 2000. (前原澄子監訳：助産学研究入門 エビデンスにもとづく実践をめざして)
- ・堀内成子, 八重ゆかり, 松本直子. EBM 実践のための基本ステップ. EB Nursing 2(4) 404-417, 2002

## 講義スケジュール

日程	テーマ	担当
4月 9日 (木)	オリエンテーション, EBMの基本と考え方	春名
4月16日 (木)	文献レビューの基本と方法	春名
5月14日 (木)	演習1	春名
5月21日 (木)	演習2	春名
5月28日 (木)	演習3	春名
6月 4日 (木)	Women's Health & Research 1	高橋
6月18日 (木)	Women's Health & Research 2	高橋
7月 1日 (水)	演習4	春名

非常勤講師：高橋真理 北里大学看護学部 教授

## 2) 母性看護学・助産学特論II

担当：春名めぐみ / 村嶋幸代

目的：研究を推進するための基礎的能力を育成する。

母性看護学・助産学分野における現在の動向を把握し、時代のニーズに対応できる基礎的能力を育成する。

方法：根拠に基づく医療・看護 (Evidence-based Medicine・Nursing) と文献レビューの基本的な考え方および方法論について、演習を通して学ぶ。特論終了時には、レビュー論文の アウトラインもしくは初稿が書けることを目標にする。

Women's Health Nursing Methodology では、最新の知見・動向をもとにディスカッションを行う。

主な参考書：

- Arlene Fink. Conducting research literature reviews. - From the Internet to Paper- 2<sup>nd</sup> Edition 2005.
- Sue Proctor, Mary Renfrew: Linking Research and Practice in Midwifery. 2000.  
(前原澄子監訳：助産学研究入門 エビデンスにもとづく実践をめざして)
- 堀内成子, 八重ゆかり, 松本直子. EBM 実践のための基本ステップ. EB Nursing 2(4) 404-417, 2002

## 講義スケジュール

日程	テーマ	担当
10月 1日 (木)	演習 1	春名
10月 15日 (木)	演習 2	春名
10月 23日 (金)	周産期における量的研究手法の基礎と応用	我部山
10月 30日 (金)	演習 3	春名
11月 13日 (金)	研究疑問と研究計画そして論文を仕上げるまで	島田
11月 19日 (木)	演習 4	春名

非常勤講師： 我部山キヨ子 京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授  
島田三恵子 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 教授

### (4) 卒業論文

「妊婦の転倒要因に関する文献検討」

日下桃子 (指導教員：村山陵子)

## 5. 学内外での活動

### (1) 学内の活動・役割

春名めぐみ	化学物質管理担当者	平成15年4月～
	女性休養室管理担当者	平成21年10月～
松崎政代	倫理指導委員	平成21年4月～

### (2) 学外での活動・役割

春名めぐみ

日本母性衛生学会・総務部幹事・専任査読者	平成15年12月～
周産期メンタルヘルス研究会 (PSI-JAPAN) 理事	平成19年4月～
日本助産学会・専任査読者・編集委員 (和文誌・英文誌)	平成20年6月～
日本看護科学学会・専任査読者 (英文誌)	平成21年1月～
第25回東京母性衛生学会学術セミナー 企画・運営委員	平成21年6月～
科学研究費委員会専門委員	平成21年12月～
周産期メンタルヘルス研究会 第7回学術集会企画委員	平成22年3月～

村山陵子

日本人間工学会評議員	平成18年12月～
第25回東京母性衛生学会学術セミナー 企画・運営委員	平成21年6月～
日本助産学会・専任査読者 (和文誌・英文誌)	平成22年2月～

松崎政代

第25回東京母性衛生学会学術セミナー 企画・運営委員	平成21年6月～
日本看護科学学会・専任査読者 (英文誌)	平成21年9月～
日本助産学会・専任査読者 (和文誌・英文誌)	平成21年11月～

### (3) その他 (学内外における講義・講演など)

大田えりか, 本田由佳, 春名めぐみ

「Body mass Index 別の妊娠中の適正体重増加量・体脂肪量と周産期リスク：ベトナム、カンホア県、ニャチャン市における Population-based 調査」  
株式会社タニタ ベトナム調査報告会  
平成21年5月25日

大田えりか, 本田由佳, 春名めぐみ

「Body mass Index 別の妊娠中の適正体重増加量と周産期リスク：ベトナム、カンホア県、ニャチャン市における Population-based 調査」

聖マリアンナ医科大学 産婦人科後援院内講演会

平成21年7月27日

松崎政代, 中山香映

「フリースタイル出産」アドバイザー、共同研究担当

東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科

平成19年～

東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科

「フリースタイル出産 講習」講師

平成21年10月13日

春名めぐみ

東京大学大学院医学系研究科 専門看護師教育コース (がん看護)

看護コンサルテーション特論 「母性看護コンサルテーションの実際」

平成21年10月19日

本田由佳

「自分の体を知って健康で大きくなるう」

板橋区教育委員会 健やかな心と体づくりに取り組む児童の育成事業 講師

板橋区立富士見台小学校 5年生 (板橋区教育委員会研究奨励校)

平成21年12月16日

本田由佳

「生体インピーダンス法で把握できる妊婦の生体情報—特に血液循環量との関係について—」

聖路加看護大学 助産学特論 特別講義 講師

平成22年1月8日

## 6. 教室日誌

2009年	4月 6日	健康科学・看護学科進学式 助産学教育課程オリエンテーション
	4月 7日	地域看護学教室, 母性看護学・助産学教室 合同ウェルカムパーティー
	4月 9日 ~ 7月 1日	母性看護学・助産学特論Ⅰ 講義
	4月 23日 , 30日	生きることを支える科学: 看護学の最先端 (総合科学: 人間・環境一般) 講義
	5月 11日 ~ 9月 17日	助産学Ⅰ 講義
	5月 15日 ~ 8月 31日	助産管理学 講義
	6月 5日 , 6日	平成21年度全国助産師教育協議会 (東京都)
	6月 8日 ~ 6月 19日	母性看護学実習
	7月 2日 , 3日	平成21年度国立大学法人助産師教育専任教員 会議 (九州)
	7月 14日	平成21年度第1回病院看護部および健康科学・ 看護学科看護系教員連絡会議
	8月 27日 ~ 8月 31日	助産学実習Ⅰ
	9月 4日 ~ 11月 20日	助産学Ⅳ 講義・演習
	9月 7日 ~ 10月 7日	助産学Ⅱ 講義
	9月 16日 ~ 11月 25日	ラボメソ生理学担当教室: 神経・筋骨格系講義
	9月 29日	第8回 シフラの会開催
	10月 1日 ~ 11月 19日	母性看護学・助産学特論Ⅱ 講義
	10月 19日 ~ 11月 20日	母性看護学 講義
	10月 28日	健康科学・看護学概論 講義
	11月 24日 ~ 12月 27日	助産学実習Ⅱ①
	11月 19日	助産学教育課程説明会
	12月 8日	平成21年度第2回病院看護部および健康科学・ 看護学科看護系教員連絡会議
2010年	1月 4日 ~ 1月 22日	助産学実習Ⅱ②
	1月 28日 , 29日	修士論文発表会
	2月 8日	卒業論文発表会
	2月 8日	助産学教育課程選考面接 (2名)
	3月 11日	母性看護学・助産学教室 忘年会・助産学教育 課程学生 送別会

## 7. 教室員名簿

<2009 年度>

職名	氏名	勤務先 名称・住所
教授 (兼任) 2003. 5. 21～	村嶋 幸代	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻, 地域看護学分野
講師 2002. 6. 16～	春名 めぐみ	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻, 母性看護学・助産学分野
講師 2003. 10. 1～	村山 陵子	同 上
助教 2009. 4. 1～	松崎 政代	同 上
非常勤講師 (大学院) 2002. 10～	高橋 真理	北里大学 看護学部 〒228-0829 神奈川県相模原市北里 2-1-1
非常勤講師 (大学院) 2006. 4～	我部山キヨ子	京都大学 医学部 保健学科 〒606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町 53 番地
非常勤講師 (大学院) 2003. 4～	島田 三恵子	大阪大学大学院 医学系研究科 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-7
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2003. 4～	近藤 好枝	慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 4411
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2002. 10～	三宅 はつえ	もものみ助産院 (出張開業) 〒306-0023 茨城県古河市本町 4-7-1-2-503
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2007. 4～	石川 紀子	恩寵財団母子愛護会愛育病院産婦人科外来 〒106-8580 東京都港区南麻布 5-6-8
非常勤講師 (学部/助産学) 2005. 4～	安藤 広子	岩手県立大学 看護学部 〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字菓子 152-52
非常勤講師 (学部/助産学) 2006. 4～	井村 真澄	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 〒250-8858 神奈川県小田原市城山 1-2-25
非常勤講師 (学部/助産学) 2005. 4～	対馬 ルリ子	フィーマールガーデン ウィミンズ・ウェルネス 銀座クリニック 〒104-0061 東京都中央区銀座 1-7-10 銀座富士ビル 3 階
非常勤講師 (学部/助産学) 2005. 4～	中根 直子	日本赤十字社医療センター 分娩室 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-22
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2006. 4～	兵藤 博信	東京大学 医学部産科婦人科学教室
非常勤講師 (学部/母性看護学) 2009. 4～	亀井 良政	東京大学 医学部産科婦人科学教室
非常勤講師 (学部/母性看護学, 助産学) 2005. 4～	本田 京子	東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科
非常勤講師 (学部/母性看護学, 助産学) 2008. 4～	松本 弘子	東京大学医学部附属病院 女性診療科・産科
大学院生 (博士 3 年) 2005. 4～	中山 香映	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻, 母性看護学・助産学分野
大学院生 (博士 1 年) 2007. 4～	岡本 美香子	同 上
大学院生 (博士 1 年) 2007. 4～	白石 三恵	同 上

大学院生 (博士1年) 2009.4～	堀田 久美	同 上
研究生 2008.4～2010.3	岩尾 侑充子	同 上
客員研究員 2009.4～2010.3	大田 えりか	同 上
客員研究員 2008.4～	本田 由佳	(株)タニタ 〒174-8630 東京都板橋区前野町1-14-2
事務補佐員 2006.7～	渡部 由美	東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻, 母性看護学・助産学分野
技術補佐員 2009.12～	飯野 伸子	同 上

---

母性看護学・助産学分野年報	第8号
発行年月日:	2010年3月31日
発行責任者:	〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 母性看護学・助産学分野 春名めぐみ・村山陵子 / 村嶋幸代 Tel & Fax. 03-5841-3396

---